

年をとっても、認知症になっても、障がいがあっても住み良い新座市にしていけるよう共に尽力していきたいです。

今後とも、よろしくお願いいたします！



菅 嘉子（えん 多機能ホームまどか管理者）

ひょんなことからこの業界に入って30年ちかく、ここまで続けているとは思いませんでした。20代の頃に障がいをもつ人たちと共に働く場（堀ノ内病院にあった「売店てまや」）に出入りすることになり、少しずつ地域と関わり始め、子どもを通して知り合った人たちと一緒に食事をしたり、お出かけしたり、多くの人に支えられて子どもと一緒に私も親として育ってきました。そんなことをしていたもので、支えたり支えられたりはできる人がやるものと思っていました。初めのうちは仕事として介護に携わることに違和感があったのが、少しずつ責任の重さを感じてきて「お互いさま」の関係でありながらも、プロ意識が必要なのだとシフトチェンジするようになりました。

私からみた「えん」は、目の前にある必要なことをしていたら知らず知らずのうちに地域のいろいろなところで繋がっている法人になっていて、ちょっと驚いています。アメンバーのように形を変えてきた「えん」。これからも変容していくのに一員として携わっていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

安田 実子（えん 特定相談支援ケアプランえん管理者）

障がい者福祉の仕事を始めて27年目でしょうか…。人生の半分を福祉で占めていると思うと、あらためてびっくりします。重度障害者の在宅支援の仕事が私の福祉のスタートです。そんな私が『えん』のような法人で理事を務めることになるとは、私の人生設計にはありませんでした。常に外から『えん』を見ている感じではあるのですが、ヘルパー時代に見えていた『えん』、相談支援専門員になって見えた『えん』、現在は特定相談と基幹センターの管理職となって見えている『えん』。立場や役割が変われば、見えるものは違うし見ようとする私の意識も変わってきました。

理事として、なにを見ていくか？必要なことをしっかり捉えて発信できる人になりたいと思っています。スタッフの意見が正しく届いて運営に反映される、それがちゃんと形になっていくのが見える『えん』を作る、それが私の理事としての目標です。

